

## 和歌山病院での実習を終えて



横田 光貴

私が和歌山病院での実習で印象に残っていることは大きく分けて2つあります。

まず1つ目がセミナーです。南方先生、駿田先生のセミナーは単なる講義形式の受動的なものではなく、学生に考えさせる形式で、常に頭を動かしていないとついていけなくなるものでした。特にX線の読み方は、これまで本を読んでも、ポリクリを半年間回ってもあやふやでしたが、南方先生のお話を自分たちで考えながら聴いたおかげで、少なくとも学生レベルの理解はできたと思いますし、二度と忘れないと思います。

そして2つ目が結核病棟です。正直に言うと、駿田先生のセミナーを受けるまでは結核と聞くだけで、空気感染でうつるからマスクをしていたとしてもできることなら関わりたくないなと思っていました。しかし、実際はそんなことを思う必要はなく、きちんと感染対策をしていればふつうの患者と何ら変わりなく関わることもできると知りました。また、結核病棟は一見かなり簡素化されているようでしたが、N95マスクをつけるための前室や陰圧室などのきちんと考えられた設備があり、見た目以上の工夫に驚きました。

2日間という短い期間ではありましたが、和医大でのポリクリだけではできなかった経験をすることができました。ありがとうございました。特に、焼鳥を奢ってくださった南方院長には改めて感謝いたします。